

2026年3月期 第3四半期 決算補足資料

AZ-COM丸和ホールディングス株式会社

証券コード：9090（東証プライム市場）

01

2026年3月期 第3四半期 実績

02

2026年3月期 業績予想

03

中期経営計画2028 進捗状況

04

ご参考

01

2026年3月期 第3四半期 実績

02

2026年3月期 業績予想

03

中期経営計画2028 進捗状況

04

ご参考

2026年3月期 第3四半期 決算概要



(百万円)	2025年3月期	2026年3月期	前期比較		2026年3月期	予想	進捗率
	3Q 実績	3Q 実績	伸率	増減額	2026年3月期		
売上高	157,644	174,918	+11.0%	17,274	220,000	79.5%	
営業利益	8,941	10,131	+13.3%	1,190	11,900	85.1%	
利益率 (%)	5.7	5.8	-	0.1	5.4	-	
経常利益	9,399	10,495	+11.7%	1,096	12,000	87.5%	
利益率 (%)	6.0	6.0	-	0.0	5.5	-	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,956	6,570	+10.3%	614	7,300	90.0%	

ドメイン別売上高（輸配送事業）

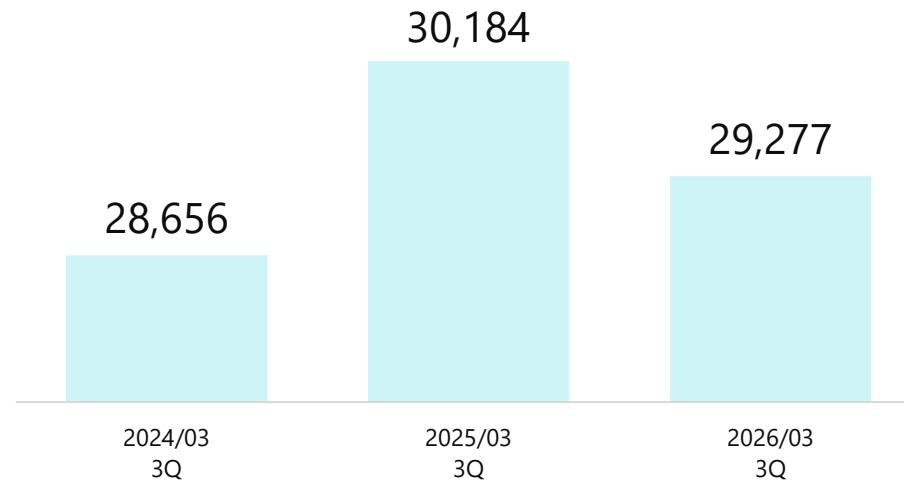


単位：百万円

ラストワンマイル事業

前期比

△3.0%

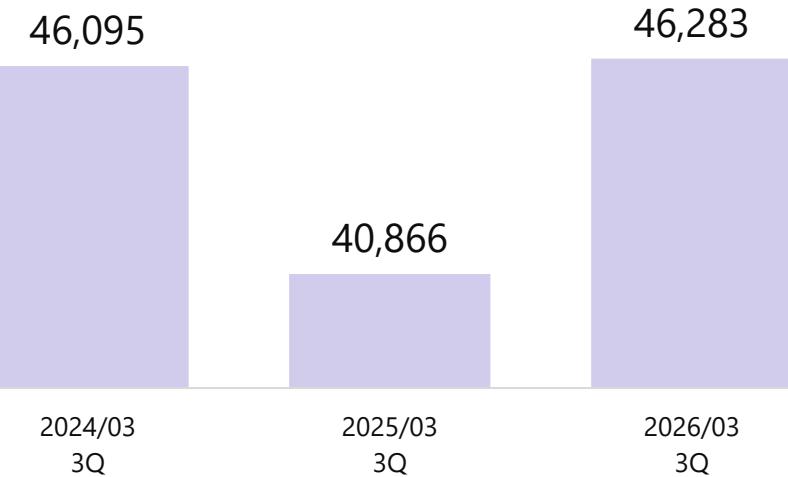


- ・ ブラックフライデーセール等による増車
- ・ ネットスーパー事業等の一部譲渡に伴う減少

EC常温輸配送事業

前期比

+13.3%



- ・ 各種セールおよび年末需要に伴う輸送数の増加
- ・ 既存取引先との新たな輸配送サービスの拡大

ドメイン別売上高（3PL事業）

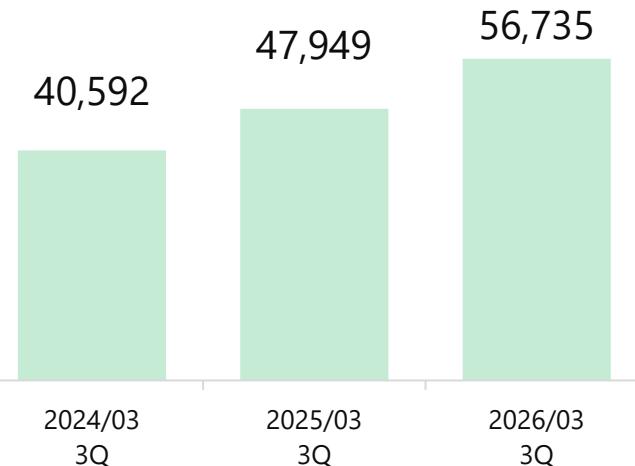


単位：百万円

EC常温3PL事業

前期比

+18.3%

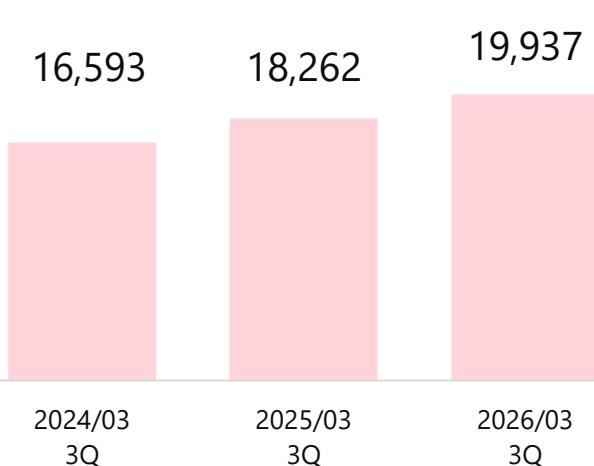


- 大手ネット通販会社向け物流センターの通期稼働
- 既存取引先における取扱物量の増加

低温食品3PL事業

前期比

+9.2%

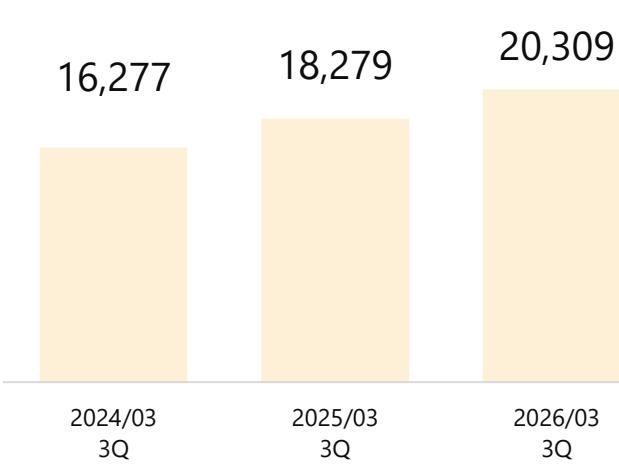


- スーパー・マーケット向け物流センターの通期稼働
- 商品単価の上昇や年末需要に伴う取扱物量の増加

医薬・医療3PL事業

前期比

+11.1%



- ドラッグストア向け物流センターの通期稼働
- 都心店舗を中心とした取扱物量の増加

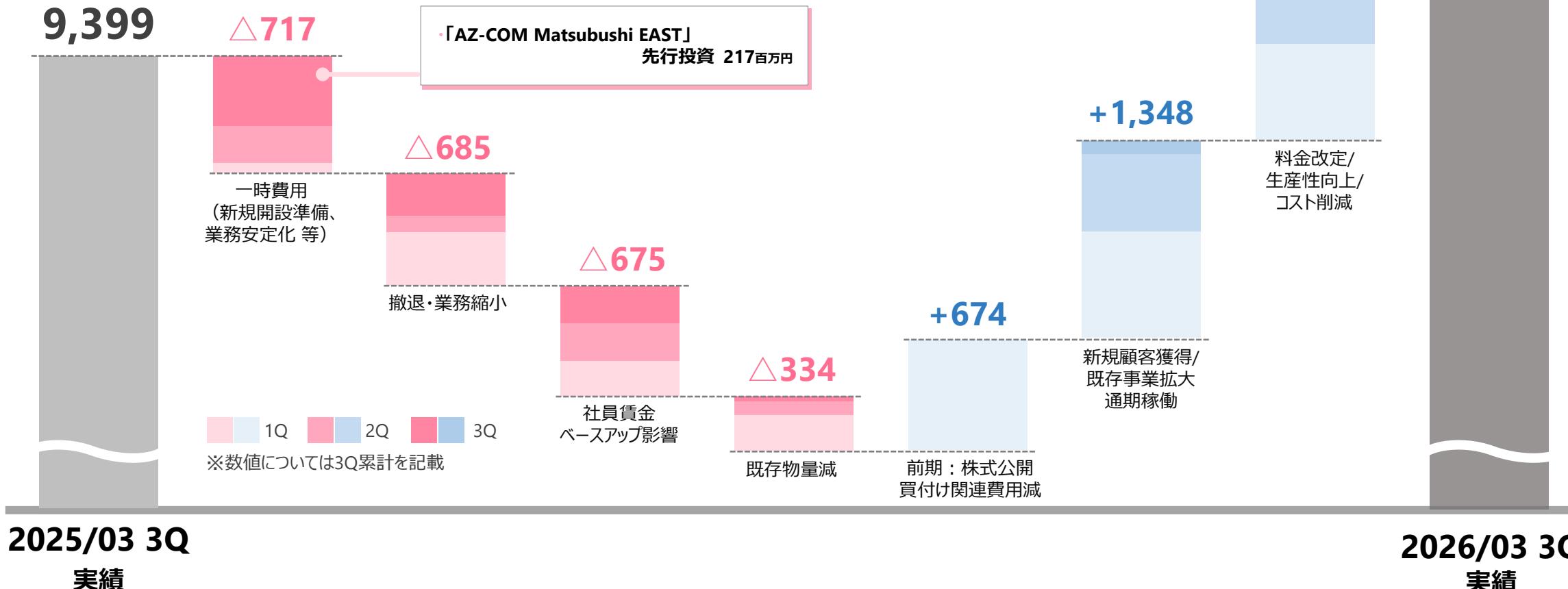
経常利益分析



単位：百万円

前期差

1,096 百万円



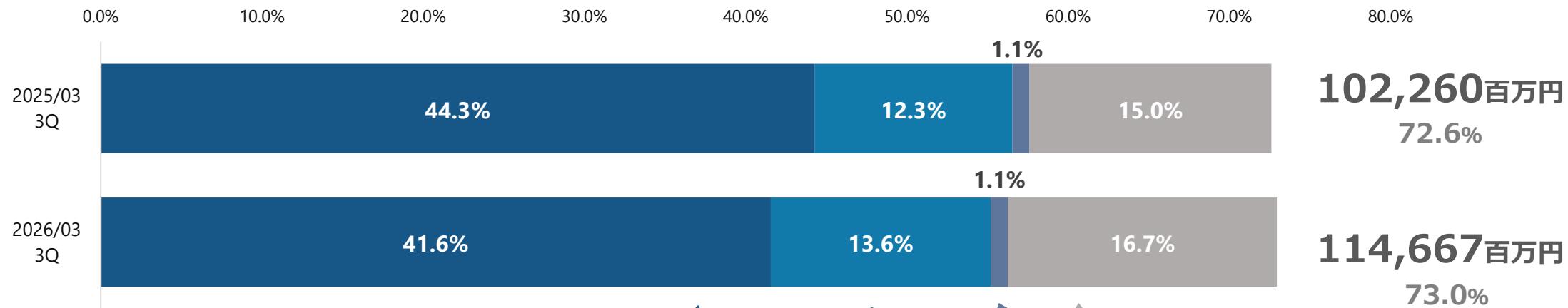
損益計算書

単位：百万円 百万円未満切り捨て	2025年3月期 3Q実績	構成比	2026年3月期 3Q実績	構成比	前期比	前期対比 増減額
売上高	157,644	100.0%	174,918	100.0%	+11.0%	17,274
売上原価	140,817	89.3%	157,166	89.9%	+11.6%	16,349
売上総利益	16,827	10.7%	17,751	10.1%	+5.5%	924
販売費及び一般管理費	7,885	5.0%	7,619	4.4%	△3.4%	△266
営業利益	8,941	5.7%	10,131	5.8%	+13.3%	1,190
営業外収益	598	0.4%	732	0.4%	+22.4%	134
営業外費用	140	0.1%	369	0.2%	+163.6%	229
経常利益	9,399	6.0%	10,495	6.0%	+11.7%	1,096
特別利益	314	0.2%	77	0.0%	△75.5%	△237
特別損失	15	0.0%	0	0.0%	△100.0%	△15
税金等調整前四半期純利益	9,697	6.2%	10,572	6.0%	+9.0%	875
法人税等	3,453	2.2%	3,735	2.1%	+8.2%	282
当期純利益	6,244	4.0%	6,836	3.9%	+9.5%	592
非支配株主に帰属する四半期純利益	287	0.2%	265	0.2%	△7.7%	△22
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,956	3.8%	6,570	3.8%	+10.3%	614

売上原価分析

単位：百万円 百万円未満切り捨て	2025年3月期 3Q		2026年3月期 3Q		前期対比		構成比
	実績		実績	伸率	増減額		
合計	140,817		157,166	+11.6%	16,349		-
人件費	38,556		42,499	+10.2%	3,943		27.0%
諸経費	102,260		114,667	+12.1%	12,407		73.0%

■ 売上原価に占める諸経費の内訳



貸借対照表

単位：百万円

	2025年3月期 実績	2026年3月期 3Q 実績	前期末対比	前期末対比 増減額	増減要因	
流動資産	66,573	61,492	△7.6%	△5,081	現金及び預金 受取手形及び売掛金	△11,152 3,864
固定資産	71,977	97,973	+36.1%	25,996	建物及び構築物(純額) 建設仮勘定	20,854 △5,264
資産合計	138,550	159,466	+15.1%	20,916		
流動負債	50,682	37,246	△26.5%	△13,436	支払手形及び買掛金 1年内償還予定の転換社債	2,440 △20,146
固定負債	27,436	57,518	+109.6%	30,082	転換社債 長期借入金	22,000 6,539
負債合計	78,119	94,765	+21.3%	16,646		
株主資本	54,540	56,792	+4.1%	2,252	利益剰余金	2,242
その他の包括利益累計額	3,227	5,090	+57.7%	1,863	その他有価証券評価差額金	1,815
非支配株主持分	2,663	2,818	+5.8%	155		
純資産合計	60,431	64,701	+7.1%	4,270		
負債純資産合計	138,550	159,466	+15.1%	20,916		

01

2026年3月期 第3四半期 実績

02

2026年3月期 業績予想

03

中期経営計画2028 進捗状況

04

ご参考

2026年3月期 業績予想サマリー



- 上期については前期開設した物流センターの通期稼働が業績に寄与
- 下期については、新規物流センターにおける業務安定化のための費用、既存物流センターの生産性向上を目的とした先行投資や統廃合にかかる費用を見込む

(百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	前期対比		2025年3月期 下期実績	2026年3月期 下期予想	下期前期対比	
			伸率	増減額			伸率	増減額
売上高	208,370	220,000	+5.6%	11,630	106,930	106,946	+0.0%	16
営業利益	10,956	11,900	+8.6%	944	6,630	5,832	△12.0%	△798
利益率(%)	5.3	5.4	-	0.1	6.2	5.5	-	△0.7
経常利益	11,633	12,000	+3.2%	367	7,024	5,731	△18.4%	△1,293
利益率(%)	5.6	5.5	-	△0.1	6.6	5.4	-	△1.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,276	7,300	+0.3%	24	4,431	3,309	△25.3%	△1,122
1株当たり 当期純利益(円)	54.00	54.21				33.05		
1株当たり 配当金(円)	32.00	32.00				16.00		

株主還元方針

- 上場来（2014年3月期）増配を継続しており、**累進配当を基本方針**としてまいります。（記念配当を除く）
- 配当性向については、**40%目安**を目標としてまいります。



※2021年3月期の配当につきましては創業50周年の記念配当（中間・期末それぞれ3.75円）が含まれております。

※当社は、2019年10月1日付、また、2021年1月1日付で株式1株につき2株の株式分割を実施いたしました。当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の1株あたりの指標の推移を記載しております。

01

2026年3月期 第3四半期 実績

02

2026年3月期 業績予想

03

中期経営計画2028 進捗状況

04

ご参考

「高収益企業づくり」に向けた取り組み（2Q資料より再掲）



01 売上成長による利益確保

- ◆ 各種フレームワークを活用した分析手法により将来の経営環境を予測しながら現在の事業戦略を策定、見直しを繰り返すことで各ドメインの売上拡大、事業成長を目指す
- ◆ 新規拠点（AZ-COM Matsubushi、他）および既存拠点の稼働率向上

02 原価上昇部分の価格転嫁

- ◆ 高い物流品質の維持・向上によるお客様への価値提供、コミュニケーションの再徹底
- ◆ 段階的かつ定期的な価格改定（料金交渉）、コスト削減、お客様への条件交渉

03 売上原価率の低減

- ◆ 業務標準化とDX推進
- ◆ 社員のマネジメントスキルの向上による1人当たりの売上向上
- ◆ 拠点の統廃合・共同営業によるAZ-COM丸和グループシナジーの強化
- ◆ 日次決算マネジメント推進による変動費対策の強化

04 販管費率の低減

- ◆ ノンコア・定型業務をシェアードサービスとしAZ-COM丸和グループ全体で包括化
- ◆ 業務棚卸、コア業務への集中、業務の重複回避、標準化、効率化、組織の統合・再編などによって業務と経営の合理化を実現

新規稼働センターについて



低温食品3PL

AZ-COM 高知



所在地

高知県高知市

用途

スーパー・マーケット向け三温度帯対応センター

取扱店舗数

6社49店舗

01 地域経済の活性化

高知県内外を結ぶ「物流の結節点」として県内の物流を支えるセンターとして活用

02 配送の効率化

高知県内の異なるスーパー・マーケット向けの荷物を集約しエリアごとにまとめて配送

03 作業の省力化

荷物の保管や必要な個数をデジタル表示するシステム導入

04 BCP対策

海拔60メートルという立地で南海トラフ地震による津波対策にも対応

05 将来性

「物流の2030年問題」に対応するため、県内最大規模の敷地面積約2,000坪を有し、生活を支えていく物流の継続を担う

主要荷主について

株式会社マミーマート様

- 経営課題**
- ・「生鮮・惣菜を軸とした商品力の強化」
 - ・「店舗オペレーションの高度化」
 - ・「持続的な新規出店・改装による成長」

株式会社ダスキン様（ミスター・ドーナツ事業）

- 経営課題**
- ・「品質・安全性の徹底」
 - ・「顧客体験の向上」
 - ・「持続可能な事業基盤の構築」

事業拡大と成長スピードに対応する「食品物流再編」と「高収益型3PLモデル拠点の確立」を実現

外観・フロア構成（予定）



5F 常温 食品小売/メーカー
BCP対応倉庫

4F 常温 食品小売/メーカー

3F 常温 食品小売/メーカー

2F 冷蔵・冷凍 食品小売/メーカー/
介護食

1F 冷蔵 食品小売
(青果品加工など)

特徴

- 1 首都圏の基幹拠点
- 2 食品物流モデルの構築
- 3 荷主の経営戦略・ESGと連動

売上高（目標）

2027/03期	2028/03期	2029/03期
75億円	90億円	110億円

稼働スケジュール

竣工
稼働前準備

稼働開始
2026/02-03

ミスター・ドーナツ様

マミーマート様

2026/12

全面稼働

- 主要荷主2社をはじめ、準備を進めている複数荷主を合わせて、約80%の稼働予定
- 親和性の高い荷主の誘致を進め、2026年12月中に100%の稼働率を目指す

01

2026年3月期 第3四半期 実績

02

2026年3月期 業績予想

03

中期経営計画2028 進捗状況

04

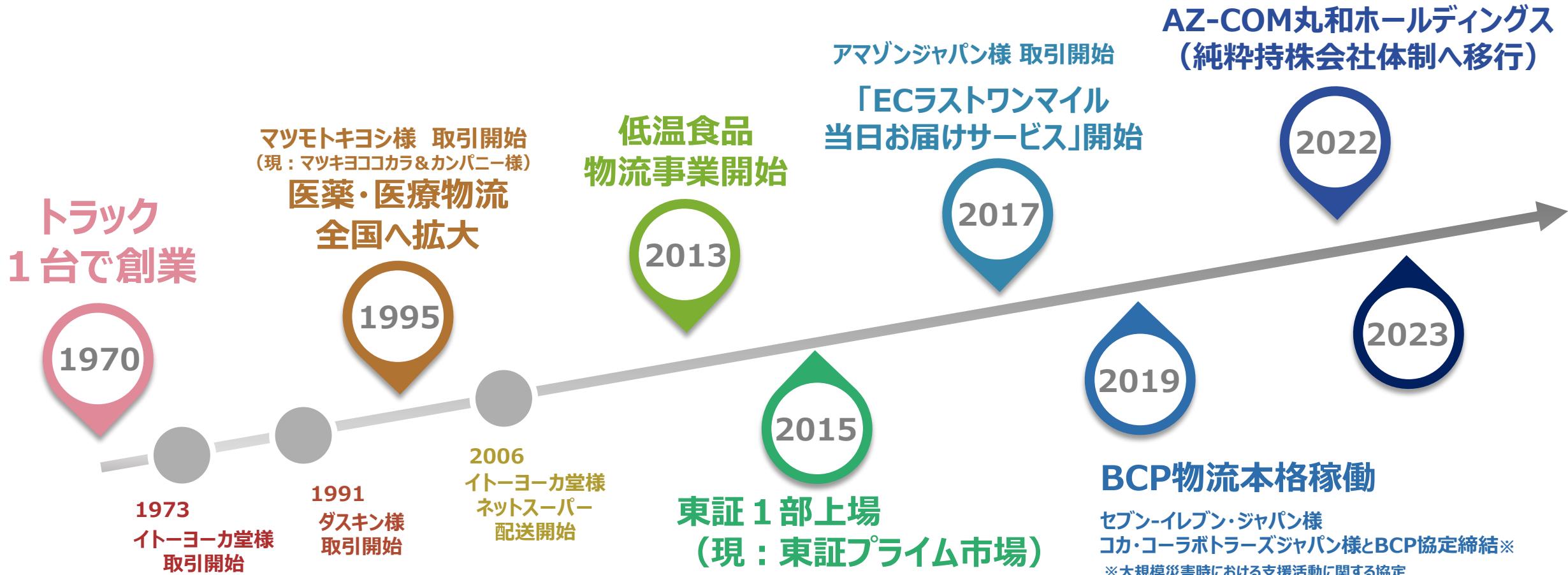
ご参考

会社概要 (2025年3月31日時点)



商号	AZ-COM丸和ホールディングス株式会社
本社	〒342-0008 埼玉県吉川市旭7-1
本社営業所	〒342-8505 埼玉県吉川市あさひ桃太郎1-1-1
東京本部	〒100-8235 東京都千代田区丸の内桃太郎（鉄鋼ビルディング本館5階）
代表者	代表取締役社長 和佐見 勝
設立	1973年8月
資本金	91億17百万円
発行済株式総数	137,984,520株
事業内容	グループ会社の経営管理など
グループ会社 [*]	連結子会社 20社 非連結子会社 4社 関連会社 1社 その他の関係会社 1社
従業員数	正社員5,241名 パート20,456名 合計25,697名 [*] ※グループ合計

※2025年9月30日時点



ドメインの紹介

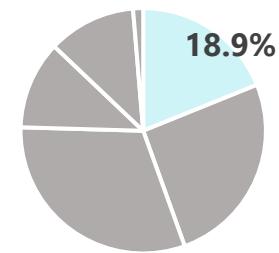
2025年3月期 売上高 **2,083億円**



輸配送事業

ラストワンマイル事業

393 億円



- ・軽車両、小型車両を活用しご自宅にお届けするサービス
- ・生協の個別配達業務
- ・ネットスーパー業務
- ・電化製品などの宅配設置

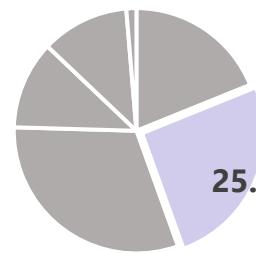
主な取引先

- ・アマゾンジャパン
- ・コープみらい



EC常温輸配送事業

533 億円



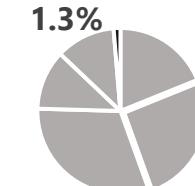
- ・中型～大型車両での拠点間配達
- ・店舗間配達業務

主な取引先

- ・アマゾンジャパン
- ・ほか



その他事業 27 億円



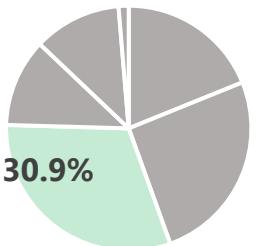
- ・情報システム関連
- ・BPO関連
(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)



3PL事業

EC常温3PL事業

644 億円



- ・大手ECサイトの専用センター業務
- ・小売業の常温品向けセンター業務

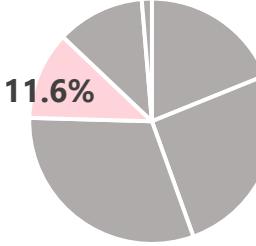
主な取引先

- ・アマゾンジャパン
- ・ダスキン



低温食品3PL事業

242 億円



- ・スーパー・マーケット向けのセンター業務
- ・メーカー/卸センターからの調達物流

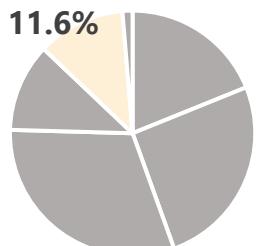
主な取引先

- ・ベルク
- ・ヤマザワ
- ・コープ東北サンネット事業連合



医薬・医療3PL事業

241 億円



- ・ドラッグストア向けのセンター業務
- ・返品物流（メーカー/卸向け）

主な取引先

- ・マツキヨココカラ&カンパニー



物流ネットワーク



✓ グループ合計**269**拠点

関西・近畿地区

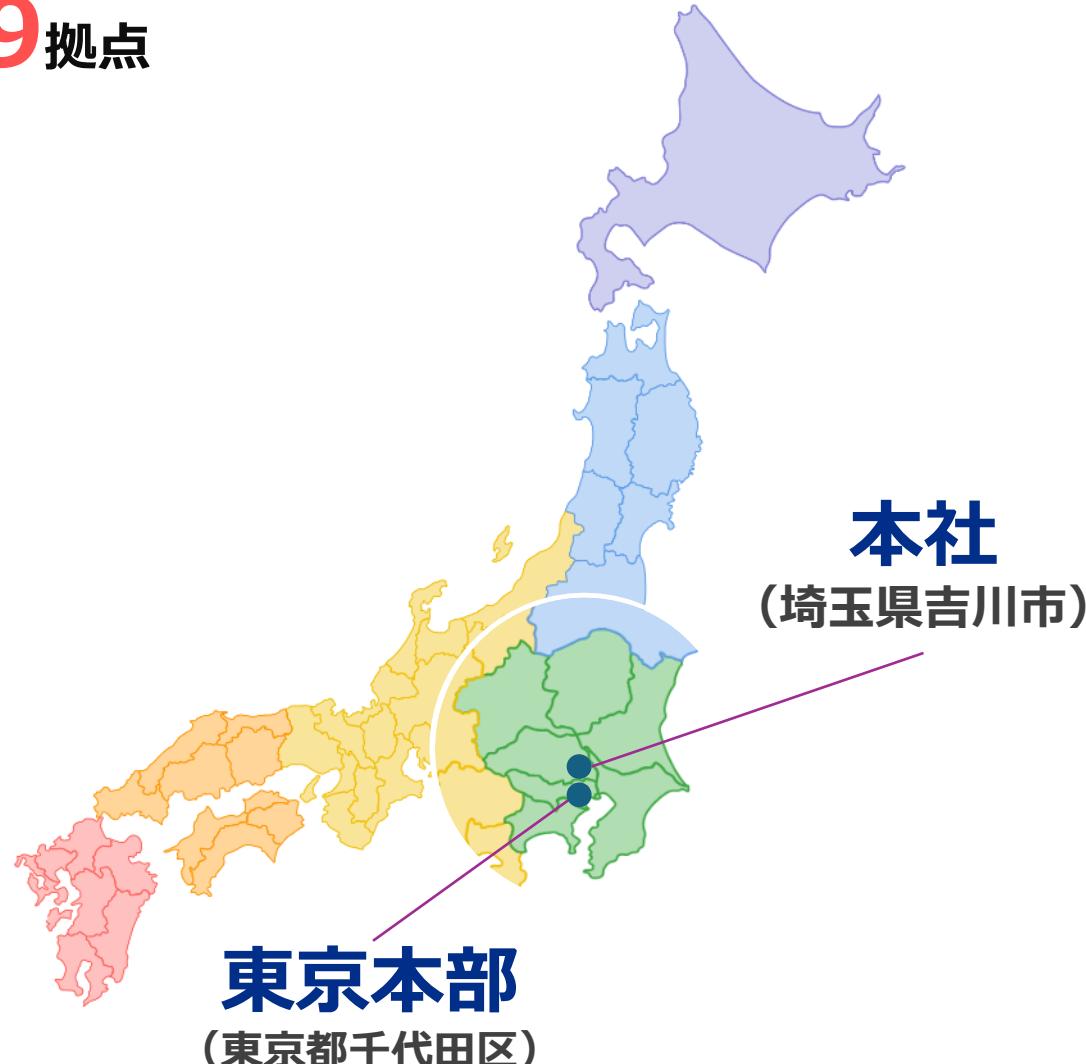
48拠点

中国・四国地区

11拠点

九州地区

14拠点



北海道地区

6拠点

東北地区

21拠点

関東地区

149拠点

中部・東海地区

20拠点

経営指標



科目	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期（予）
売上高（百万円）	133,000	177,829	198,554	208,370	220,000
経常利益（百万円）	9,139	11,949	14,498	11,633	12,000
売上高経常利益率（%）	6.9	6.7	7.3	5.6	5.5
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	6,125	7,780	9,119	7,276	7,300
総資産（百万円）	88,391	112,028	134,594	138,550	-
純資産（百万円）	30,943	38,162	57,542	60,431	-
1株あたり 当期純利益（円）	48.72	61.86	70.88	54.00	54.21
1株あたり 純資産額（円）	230.19	285.40	408.61	428.98	-
自己資本比率（%）	32.7	32.1	41.0	41.7	-
自己資本利益率 (ROE)（%）	22.4	24.0	20.0	12.9	-

国内外投資家の認知度向上に向けた取り組み



- 当社の株価が低迷している背景には、将来の成長性への疑問だけでなく、国内外投資家の認知度不足も影響していると思料
- 認知度向上に向けて以下の取組みを実施

① 決算説明会の早期化

企業情報の透明性を高めて投資家との信頼関係を構築するために、決算発表日からより早期に説明会を開催する

② 決算説明書き起こし（和英）配信の実施

現在は説明会の動画のみ配信しているが、スクリプトを書き起こすことで要旨を把握するための時間を短縮

セルサイドアナリストの利便性の向上

国内外機関投資家へのアピール強化

個人投資家へのアピール強化

③ スポンサードリサーチの導入と英文開示の充実

当社のビジネスモデル・強みや決算レポートを和英で発信し、海外機関投資家にもアピールする

④ 個人投資家向け説明会の充実

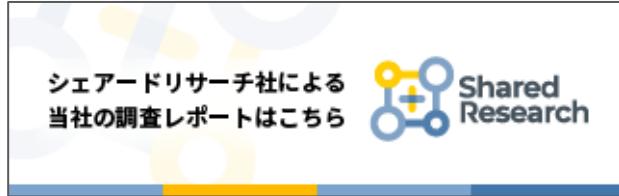
より広範な層の個人投資家に関心をもってもらうために、個人投資家説明会を一層充実させる

資本市場全体における認知度向上

各レポートのご案内



■ シェアードリサーチ社による当社レポート



シェアードリサーチ社は、世界の投資家に企業の本質を伝えるリサーチ会社で、世界130カ国、約6,800の投資機関をはじめ、多くの個人投資家に愛用されています。



■ フィスコ社による当社レポート



企業調査レポートとはフィスコのアナリストによる企業取材レポートです。経営戦略、実行力検証、成長性分析等、投資家の関心が高い内容を重点的にレポートします。



■ QUICK & NOMURA コーポレート・リサーチによる当社レポート



株式会社QUICK・野村インベスター・リレーションズ株式会社・野村證券株式会社が共同で行うスポンサー・リサーチ事業による本レポートは、弊社の事業内容とその強み・弱みの分析、事業計画、業績動向などをその内容とします。本レポートは弊社が支払うスポンサー料によって作成されていますが、正確性・客観性を重視して執筆されています。





本資料ならびにIR関係のお問い合わせ先

AZ-COM丸和ホールディングス株式会社
経営戦略グループ 広報・IR部

当社ホームページ

<https://www.az-com-maruwa-hd.co.jp/>

【本資料の取り扱いについて】

- 本書には、当社に関する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。